

## 着任のご挨拶

シンガポール日本商工会議所 運営担当理事  
MARUBENI ASEAN PTE. LTD.  
GM, Regional CEO's Office for ASEAN & Southwest Asia  
四十万 聡司



シンガポール日本商工会議所の皆様、3月まで理事を務めておりました河田の帰任に伴い、この度理事を務めさせて頂くことになりました丸紅アセアンの四十万（しじま）と申します。この場をお借りしてご挨拶申し上げます。

最初に簡単に自己紹介をさせていただきますと、入社は1995年で、最初の約10年間は原子力関連（主に、バックエンドと呼ばれる使用済核燃料の再処理・再利用関連業務）、2004年10月以降の約16年間は石油ガス上流開発事業／LNG権益ビジネスと、ずっとエネルギー関連の営業畑を歩んでおり、途中の2008年～2012年には英国ロンドンの事業会社に駐在致しました。その後、2021年3月にシンガポールに赴任し、現在に至るわけですが、当地ではエネルギーという単一の営業本部から離れ、弊社の全ビジネスを対象に、アセアン・南西アジア地域を管掌する地域統括のサポート役として、域内戦略の策定や遂行といった経営企画的な業務に従事しています。

思い返すと、シンガポールに赴任した2021年は、まだコロナの真っ最中でした。チャンギ空港でPCR検査を受け、陰性の確認が取れたらそのまま行先不明のバスに乗せられてホテルに移動、そこから2週間の強制隔離生活を過ごしました（私の場合はJENタングリーンホテルでした）。私に割り当てられたのは残念ながら窓が開かない部屋だったので、気温や湿度、街の音といった生活の実感も沸きませんし、気分転換と言えば食事くらいでした。ホテルが差し入れるお弁当は殆ど代わり映えしませんでした。スタッフの方が付箋に手書きで励ましのメッセージを毎回のように同封してくれていたことが自分にとっては大きな心の支えとなりました。同じ経験を再びしたいとは全く思わないものの、今となっては貴重な経験であり、良い思い出です。それだけお世話になったにも関わらず、隔離後に一度もそのホテルを利用していない点は心苦しいですが……。

あれから丸三年が過ぎ、今ではシンガポール駐在も4年目に入りました。最初の1年はコロナで域内への出張もままならず、ほぼ在宅勤務の状況でしたのでカウント外とすると、実質はまだ2年ちょっとしか経験がなく、未だにこの地域のことを勉強している毎日です。インドやバングラデシュを筆頭に、この地域の国はどこに行っても活気にあふれ、ものすごいスピードで変化しており、出張する度に新しい発見が得られますので、どれだけ勉強しても全く追いつけません。むしろ、日本の方が遅れていると感じるケースもたくさんあります。日系企業として、この凄まじいエネルギーをどうすればビジネスに取り込んでいけるのか。例えば、欧米で教育を受け、合理的な考え方をする若い世代が親世代から事業を継承するケースも増えてきていますが、そこでは「日本だから」「日系企業だから」鼻真にしてくれるという甘い考え方や、「阿吽の呼吸」は通用しません。従来の価値観で物事を考えていては、5年後、10年後に自社の居場所はなくなるのではないかという危機感をヒシヒシと感じながら、しかしながら同時にそのような時代に現場の最前線に立てることにワクワクしながら、日々の業務に臨んでいます。

この度、JCCIに理事として参加する機会を頂き、気が引き締まる思いです。シンガポールに駐在しているにも関わらず、経営企画的な業務の性格上、シンガポールにいらっしゃる皆様と接することがこれまであまりありませんでした。まずは皆様と交流を深めさせて頂きつつ、JCCIの活動について早急にキャッチアップした上で、現在のシンガポールと日本の良好な関係の更なる発展に向けて、少しでもJCCIの活動に貢献できるよう、微力ながら尽力する所存です。

最後になりますが、会員企業の皆様、事務局の皆様、並びにご家族の皆様の益々のご健勝・ご発展を祈念してご挨拶とさせていただきます。